



平成 29 年 1 月 20 日

各 位

会社名 日本水産株式会社
代表者名 代表取締役社長執行役員 細見 典男
コード番号 1332
問合せ先 経営企画 IR 室長 根本 喜一
(TEL. 03-6206-7037)

(訂正)「平成 26 年 3 月期第 3 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

当社は、平成 26 年 2 月 5 日に開示いたしました「平成 26 年 3 月期第 3 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部を訂正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 訂正理由及び経緯

訂正の理由及び経緯につきましては、平成 29 年 1 月 20 日付「過年度に係る有価証券報告書等の訂正報告書の提出及び過年度に係る決算短信等の訂正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 訂正箇所

訂正箇所が多数に及ぶため、訂正後及び訂正前の全文をそれぞれ添付し、訂正箇所には_____を付して表示しております。

以上

【訂正後】



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月5日

上場会社名 日本水産株式会社
 コード番号 1332 URL <http://www.nissui.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 細見 典男
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画IR室長 (氏名) 根本 喜一
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月13日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 03-3244-7490

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
26年3月期第3四半期	448,695	6.2	11,676	53.6	11,264	82.8	5,849	160.6
25年3月期第3四半期	422,559	3.2	7,604	△32.1	6,160	△33.8	2,244	△50.2

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 14,159百万円 (200.2%) 25年3月期第3四半期 4,716百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	21.17	—
25年3月期第3四半期	8.13	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
26年3月期第3四半期	457,363	80,772	14.5
25年3月期	424,108	66,404	12.5

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 66,285百万円 25年3月期 52,867百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	582,000	2.7	12,500	115.2	11,500	111.3	6,000	—	21.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 — 社 (社名) 、除外 1 社 (社名) 山東山孚日水有限公司
(注) 詳細は、添付資料P.3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	277,210,277 株	25年3月期	277,210,277 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	928,220 株	25年3月期	923,417 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	276,284,797 株	25年3月期3Q	276,289,286 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想にご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済・金融政策等の効果によって円安・株高が進行し、輸出企業を中心とする企業収益の改善とともに、個人消費では耐久消費財への需要の盛り上がりもあり、景気は回復の兆しを見せています。

世界経済（連結対象期間1－9月）につきましては、米国では景気は緩やかな回復基調にあり、欧州のユーロ圏では景気は下げ止まり、ドイツ・イギリスにおいて個人消費持ち直しの動きが見られます。アジアでは中国において経済成長率が鈍化しています。

このような状況下で当第3四半期連結累計期間の営業成績は、売上高は4,486億95百万円（前年同期比261億36百万円増）、営業利益は116億76百万円（前年同期比40億72百万円増）、経常利益は112億64百万円（前年同期比51億3百万円増）、第3四半期純利益は58億49百万円（前年同期比36億4百万円増）となりました。

事業の概況は次のとおりであります。

(1) 水産事業

水産事業につきましては、漁撈事業、養殖事業、加工・商事事業を営んでおります。

<当第3四半期連結累計期間の概況>

水産事業では売上高は1,860億77百万円（前年同期比130億90百万円増）となり、営業利益は41億86百万円（前年同期比39億64百万円増）となりました。

漁撈事業：前年同期比で減収、増益となりました。

- ・ 日本では、海外まき網漁業のかつおと、近海漁業のぶりの漁獲・販売が順調に推移しました。
- ・ 南米では、漁撈事業の縮小・撤退を進め減収となりましたが、効率的な操業を行いました。

養殖事業：前年同期比で減収、増益となりました。

- ・ 日本では、ぶり養殖事業で魚価が回復し販売数量も増加しましたが、まぐろ養殖事業では魚価が下落し販売数量も減少しました。
- ・ 南米では、鮭鱒養殖事業で魚病の影響により原魚コストが上昇しましたが、魚価が上昇したことにより利益は改善しました。

加工・商事事業：前年同期比で増収、増益となりました。

- ・ 日本では、水産物の在庫圧縮を進めるとともに鮭鱒、えびが高値で推移しました。
- ・ 北米では、すけそうだらのすりみやフィレーの生産量が増加しましたが、助子の生産量は減少し、全体として販売価格は下落しました。
- ・ ヨーロッパでは、販売エリアの拡大で売上高が増加し、粗利率も向上しました。

(2) 食品事業

食品事業につきましては、加工事業およびチルド事業を営んでおります。

<当第3四半期連結累計期間の概況>

食品事業では売上高は2,124億95百万円（前年同期比122億95百万円増）となり、営業利益は24億35百万円（前年同期比2億62百万円増）となりました。

加工事業：前年同期比で増収、増益となりました。

- ・ 日本では、家庭用冷凍食品、業務用冷凍食品において円安による輸入原材料・製品などのコスト高があり、生産性の向上や販売経費の削減、販売価格の改定などに取り組みました。
- ・ 北米では、家庭用冷凍食品会社で厳しい価格競争があり、大幅に減益となりました。業務用冷凍食品会社では主要原料のえび価格が上昇しましたが、外食卸向けの販売が順調に推移しました。
- ・ ヨーロッパでは、水産食品加工会社で生産能力の拡大や生産性の向上、新商品の投入などが順調に推移しました。

チルド事業：前年同期比で減収、増益となりました。

- ・ コンビニエンスストア向け食品生産工場において生産品目の見直しがあり減収となりましたが、生産性の改善や廃棄ロスの削減などに取り組み、増益となりました。

(3) ファイン事業

ファイン事業につきましては、医薬原料、機能性原料（注1）、機能性食品（注2）、および医薬品、診断薬の生産・販売を行っております。

<当第3四半期連結累計期間の概況>

ファイン事業では売上高は215億65百万円（前年同期比7億61百万円増）となり、営業利益は58億56百万円（前年同期比1億63百万円増）となりました。

- ・ 医薬原料は前年同期並みに推移し、機能性食品については、広告宣伝の強化により通信販売が好調に推移しました。連結子会社の日水製薬株式会社では、臨床診断薬事業などの販売が伸び悩みました。

(4) 物流事業

物流事業につきましては、冷蔵倉庫事業、配送事業、通関事業を営んでおります。

<当第3四半期連結累計期間の概況>

物流事業では売上高は106億30百万円（前年同期比4億79百万円増）となり、営業利益は13億39百万円（前年同期比1億86百万円減）となりました。

- ・ 共同配送事業の新規取り組みなどにより増収となりましたが、冷蔵倉庫事業において取扱量が減少しました。

(注1) 主に食品素材や化粧品素材向けとなるEPA・DHA、グルコサミン、コレステロール、オレンジラフィー油など。

(注2) 特定保健用食品「イマーク」・「イマークS」やEPA・DHA、グルコサミンなどのサプリメント。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べて16.0%増加し、2,338億33百万円となりました。これは受取手形及び売掛金が165億65百万円、商品及び製品が69億38百万円、仕掛品が45億21百万円増加したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて0.5%増加し、2,235億29百万円となりました。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて7.8%増加し、4,573億63百万円となりました。

負債

流動負債は、前連結会計年度末に比べて11.5%増加し、2,255億68百万円となりました。これは支払手形及び買掛金が58億13百万円、短期借入金が187億54百万円増加したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて2.8%減少し、1,510億21百万円となりました。これは長期借入金62億95百万円減少したことなどによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて5.3%増加し、3,765億90百万円となりました。

純資産

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて143億68百万円増加し、807億72百万円となりました。これは主として四半期純利益の計上により利益剰余金が58億49百万円、その他有価証券評価差額金が25億37百万円、為替換算調整勘定が51億9百万円増加したことなどによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点における通期業績予想につきましては、平成25年11月5日公表の業績予想からの変更はありませんが、今後の業績推移に応じて修正の必要が生じた場合は速やかに公表いたします。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第3四半期連結会計期間において山東山孚日水有限公司は、出資持分を譲渡したことにより連結の範囲から除外しました。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,106	16,401
受取手形及び売掛金	70,573	87,138
商品及び製品	44,834	51,773
仕掛品	16,601	21,123
原材料及び貯蔵品	27,611	24,247
その他	28,371	33,666
貸倒引当金	△500	△516
流動資産合計	201,598	233,833
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	49,161	46,504
その他(純額)	63,445	61,623
有形固定資産合計	112,607	108,128
無形固定資産		
のれん	5,030	3,970
その他	12,394	11,954
無形固定資産合計	17,425	15,925
投資その他の資産		
投資有価証券	67,627	76,729
その他	30,193	25,967
貸倒引当金	△5,344	△3,220
投資その他の資産合計	92,477	99,476
固定資産合計	222,509	223,529
資産合計	424,108	457,363

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	32,416	38,230
短期借入金	130,736	149,491
未払法人税等	3,026	2,177
未払費用	24,099	25,401
引当金	4,954	3,205
その他	7,116	7,061
流動負債合計	202,350	225,568
固定負債		
長期借入金	131,940	125,644
退職給付引当金	17,069	18,360
その他の引当金	239	231
その他	6,103	6,785
固定負債合計	155,353	151,021
負債合計	357,704	376,590
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,729	23,729
資本剰余金	13,758	13,758
利益剰余金	19,585	25,434
自己株式	△257	△258
株主資本合計	56,815	62,664
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,455	6,992
繰延ヘッジ損益	△229	68
為替換算調整勘定	△5,268	△158
在外子会社の年金債務調整額	△2,905	△3,280
その他の包括利益累計額合計	△3,947	3,621
少数株主持分	13,536	14,486
純資産合計	66,404	80,772
負債純資産合計	424,108	457,363

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	422,559	448,695
売上原価	329,479	354,280
売上総利益	93,080	94,415
販売費及び一般管理費	85,476	82,738
営業利益	7,604	11,676
営業外収益		
受取利息	667	364
受取配当金	606	672
為替差益	—	586
助成金収入	351	684
雑収入	876	841
営業外収益合計	2,502	3,150
営業外費用		
支払利息	2,796	2,500
為替差損	303	—
持分法による投資損失	127	742
雑支出	717	320
営業外費用合計	3,945	3,562
経常利益	6,160	11,264
特別利益		
固定資産売却益	468	1,464
減損損失戻入益	—	382
投資有価証券売却益	724	216
特別利益合計	1,193	2,063
特別損失		
固定資産処分損	371	224
減損損失	327	195
投資有価証券評価損	881	—
関係会社株式売却損	—	731
関係会社出資金売却損	—	784
特別退職金	—	233
特別損失合計	1,579	2,169
税金等調整前四半期純利益	5,774	11,158
法人税、住民税及び事業税	3,523	3,989
法人税等調整額	365	493
法人税等合計	3,888	4,482
少数株主損益調整前四半期純利益	1,886	6,676
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△358	827
四半期純利益	2,244	5,849

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,886	6,676
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	668	2,602
繰延ヘッジ損益	△114	82
為替換算調整勘定	<u>1,587</u>	<u>1,935</u>
在外子会社の年金債務調整額	△0	△374
持分法適用会社に対する持分相当額	689	3,239
その他の包括利益合計	<u>2,829</u>	<u>7,483</u>
四半期包括利益	<u>4,716</u>	<u>14,159</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	<u>4,581</u>	<u>13,419</u>
少数株主に係る四半期包括利益	135	740

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	水産事業	食品事業	ファイン 事業	物流事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	172,986	200,200	20,804	10,151	404,142	18,417	422,559	—	422,559
セグメント間の内部売上高 又は振替高	9,279	1,001	196	5,579	16,058	1,570	17,628	△17,628	—
計	182,266	201,202	21,001	15,730	420,200	19,987	440,188	△17,628	422,559
セグメント利益	222	2,173	5,692	1,525	9,614	948	10,563	△2,959	7,604

(注) 1. 「その他」は、報告セグメントに含まれない船舶の建造・修繕やエンジニアリング等が対象となります。

2. セグメント利益の調整額△2,959百万円には、セグメント間取引消去65百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△3,024百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

第3四半期連結累計期間において「水産事業」セグメントで売却予定の資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に189百万円計上いたしました。また、いずれの報告セグメントに配分されていない遊休資産について138百万円を減損損失に計上いたしました。

(のれんの金額の重要な変動)

「水産事業」セグメントにおいて金子産業株式会社の株式を取得し連結子会社としております。これによる第3四半期連結累計期間におけるのれんの増加額は2,304百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	水産事業	食品事業	ファイン 事業	物流事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	186,077	212,495	21,565	10,630	430,769	17,926	448,695	—	448,695
セグメント間の内部売上高 又は振替高	7,909	925	205	5,332	14,374	1,472	15,846	△15,846	—
計	193,987	213,421	21,771	15,963	445,143	19,399	464,542	△15,846	448,695
セグメント利益	4,186	2,435	5,856	1,339	13,818	814	14,632	△2,956	11,676

(注) 1. 「その他」は、報告セグメントに含まれない船舶の建造・修繕やエンジニアリング等が対象となります。

2. セグメント利益の調整額△2,956百万円には、セグメント間取引消去76百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△3,032百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において「食品事業」セグメントで閉鎖を予定している工場の資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に195百万円計上いたしました。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

【訂正前】



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月5日

上場会社名 日本水産株式会社
 コード番号 1332 URL <http://www.nissui.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 細見 典男
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画IR室長 (氏名) 根本 喜一
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月13日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 03-3244-7490

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
26年3月期第3四半期	448,695	6.2	11,676	53.6	11,264	82.8	5,849	160.6
25年3月期第3四半期	422,559	3.2	7,604	△32.1	6,160	△33.8	2,244	△50.2

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 13,759百万円 (191.4%) 25年3月期第3四半期 4,721百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	21.17	—
25年3月期第3四半期	8.13	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
26年3月期第3四半期	454,951	77,264	13.8
25年3月期	421,645	63,297	11.8

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 62,777百万円 25年3月期 49,760百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	582,000	2.7	12,500	115.2	11,500	111.3	6,000	—	21.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 — 社 (社名) 、除外 1 社 (社名) 山東山孚日水有限公司
(注) 詳細は、添付資料P.3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	277,210,277 株	25年3月期	277,210,277 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	928,220 株	25年3月期	923,417 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	276,284,797 株	25年3月期3Q	276,289,286 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想にご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
・決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済・金融政策等の効果によって円安・株高が進行し、輸出企業を中心とする企業収益の改善とともに、個人消費では耐久消費財への需要の盛り上がりもあり、景気は回復の兆しを見せています。

世界経済（連結対象期間1－9月）につきましては、米国では景気は緩やかな回復基調にあり、欧州のユーロ圏では景気は下げ止まり、ドイツ・イギリスにおいて個人消費持ち直しの動きが見られます。アジアでは中国において経済成長率が鈍化しています。

このような状況下で当第3四半期連結累計期間の営業成績は、売上高は4,486億95百万円（前年同期比261億36百万円増）、営業利益は116億76百万円（前年同期比40億72百万円増）、経常利益は112億64百万円（前年同期比51億3百万円増）、第3四半期純利益は58億49百万円（前年同期比36億4百万円増）となりました。

事業の概況は次のとおりであります。

(1) 水産事業

水産事業につきましては、漁撈事業、養殖事業、加工・商事事業を営んでおります。

<当第3四半期連結累計期間の概況>

水産事業では売上高は1,860億77百万円（前年同期比130億90百万円増）となり、営業利益は41億86百万円（前年同期比39億64百万円増）となりました。

漁撈事業：前年同期比で減収、増益となりました。

- ・ 日本では、海外まき網漁業のかつおと、近海漁業のぶりの漁獲・販売が順調に推移しました。
- ・ 南米では、漁撈事業の縮小・撤退を進め減収となりましたが、効率的な操業を行いました。

養殖事業：前年同期比で減収、増益となりました。

- ・ 日本では、ぶり養殖事業で魚価が回復し販売数量も増加しましたが、まぐろ養殖事業では魚価が下落し販売数量も減少しました。
- ・ 南米では、鮭鱒養殖事業で魚病の影響により原魚コストが上昇しましたが、魚価が上昇したことにより利益は改善しました。

加工・商事事業：前年同期比で増収、増益となりました。

- ・ 日本では、水産物の在庫圧縮を進めるとともに鮭鱒、えびが高値で推移しました。
- ・ 北米では、すけそうだらのすりみやフィレーの生産量が増加しましたが、助子の生産量は減少し、全体として販売価格は下落しました。
- ・ ヨーロッパでは、販売エリアの拡大で売上高が増加し、粗利率も向上しました。

(2) 食品事業

食品事業につきましては、加工事業およびチルド事業を営んでおります。

<当第3四半期連結累計期間の概況>

食品事業では売上高は2,124億95百万円（前年同期比122億95百万円増）となり、営業利益は24億35百万円（前年同期比2億62百万円増）となりました。

加工事業：前年同期比で増収、増益となりました。

- ・ 日本では、家庭用冷凍食品、業務用冷凍食品において円安による輸入原材料・製品などのコスト高があり、生産性の向上や販売経費の削減、販売価格の改定などに取り組みました。
- ・ 北米では、家庭用冷凍食品会社で厳しい価格競争があり、大幅に減益となりました。業務用冷凍食品会社では主要原料のえび価格が上昇しましたが、外食卸向けの販売が順調に推移しました。
- ・ ヨーロッパでは、水産食品加工会社で生産能力の拡大や生産性の向上、新商品の投入などが順調に推移しました。

チルド事業：前年同期比で減収、増益となりました。

- ・ コンビニエンスストア向け食品生産工場において生産品目の見直しがあり減収となりましたが、生産性の改善や廃棄ロスの削減などに取り組み、増益となりました。

(3) ファイン事業

ファイン事業につきましては、医薬原料、機能性原料（注1）、機能性食品（注2）、および医薬品、診断薬の生産・販売を行っております。

<当第3四半期連結累計期間の概況>

ファイン事業では売上高は215億65百万円（前年同期比7億61百万円増）となり、営業利益は58億56百万円（前年同期比1億63百万円増）となりました。

- ・ 医薬原料は前年同期並みに推移し、機能性食品については、広告宣伝の強化により通信販売が好調に推移しました。連結子会社の日水製薬株式会社では、臨床診断薬事業などの販売が伸び悩みました。

(4) 物流事業

物流事業につきましては、冷蔵倉庫事業、配送事業、通関事業を営んでおります。

<当第3四半期連結累計期間の概況>

物流事業では売上高は106億30百万円（前年同期比4億79百万円増）となり、営業利益は13億39百万円（前年同期比1億86百万円減）となりました。

- ・ 共同配送事業の新規取り組みなどにより増収となりましたが、冷蔵倉庫事業において取扱量が減少しました。

(注1) 主に食品素材や化粧品素材向けとなるEPA・DHA、グルコサミン、コレステロール、オレンジラフィー油など。

(注2) 特定保健用食品「イマーク」・「イマークS」やEPA・DHA、グルコサミンなどのサプリメント。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べて16.0%増加し、2,338億33百万円となりました。これは受取手形及び売掛金が165億65百万円、商品及び製品が69億38百万円、仕掛品が45億21百万円増加したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて0.5%増加し、2,211億18百万円となりました。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて7.9%増加し、4,549億51百万円となりました。

負債

流動負債は、前連結会計年度末に比べて11.5%増加し、2,255億68百万円となりました。これは支払手形及び買掛金が58億13百万円、短期借入金が187億54百万円増加したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて2.5%減少し、1,521億18百万円となりました。これは長期借入金62億95百万円減少したことなどによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて5.4%増加し、3,776億86百万円となりました。

純資産

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて139億67百万円増加し、772億64百万円となりました。これは主として四半期純利益の計上により利益剰余金が58億49百万円、その他有価証券評価差額金が25億37百万円、為替換算調整勘定が47億8百万円増加したことなどによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点における通期業績予想につきましては、平成25年11月5日公表の業績予想からの変更はありませんが、今後の業績推移に応じて修正の必要が生じた場合は速やかに公表いたします。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第3四半期連結会計期間において山東山孚日水有限公司は、出資持分を譲渡したことにより連結の範囲から除外しました。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,106	16,401
受取手形及び売掛金	70,573	87,138
商品及び製品	44,834	51,773
仕掛品	16,601	21,123
原材料及び貯蔵品	27,611	24,247
その他	28,371	33,666
貸倒引当金	△500	△516
流動資産合計	201,598	233,833
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	49,161	46,504
その他(純額)	63,445	61,623
有形固定資産合計	112,607	108,128
無形固定資産		
のれん	5,030	3,970
その他	12,394	11,954
無形固定資産合計	17,425	15,925
投資その他の資産		
投資有価証券	67,627	76,729
その他	27,730	23,555
貸倒引当金	△5,344	△3,220
投資その他の資産合計	90,013	97,064
固定資産合計	220,046	221,118
資産合計	421,645	454,951

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	32,416	38,230
短期借入金	130,736	149,491
未払法人税等	3,026	2,177
未払費用	24,099	25,401
引当金	4,954	3,205
その他	7,116	7,061
流動負債合計	202,350	225,568
固定負債		
長期借入金	131,940	125,644
退職給付引当金	17,069	18,360
その他の引当金	239	231
その他	6,747	7,881
固定負債合計	155,997	152,118
負債合計	358,348	377,686
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,729	23,729
資本剰余金	13,758	13,758
利益剰余金	15,883	21,732
自己株式	△257	△258
株主資本合計	53,113	58,961
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,455	6,992
繰延ヘッジ損益	△229	68
為替換算調整勘定	△4,673	35
在外子会社の年金債務調整額	△2,905	△3,280
その他の包括利益累計額合計	△3,352	3,816
少数株主持分	13,536	14,486
純資産合計	63,297	77,264
負債純資産合計	421,645	454,951

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	422,559	448,695
売上原価	329,479	354,280
売上総利益	93,080	94,415
販売費及び一般管理費	85,476	82,738
営業利益	7,604	11,676
営業外収益		
受取利息	667	364
受取配当金	606	672
為替差益	—	586
助成金収入	351	684
雑収入	876	841
営業外収益合計	2,502	3,150
営業外費用		
支払利息	2,796	2,500
為替差損	303	—
持分法による投資損失	127	742
雑支出	717	320
営業外費用合計	3,945	3,562
経常利益	6,160	11,264
特別利益		
固定資産売却益	468	1,464
減損損失戻入益	—	382
投資有価証券売却益	724	216
特別利益合計	1,193	2,063
特別損失		
固定資産処分損	371	224
減損損失	327	195
投資有価証券評価損	881	—
関係会社株式売却損	—	731
関係会社出資金売却損	—	784
特別退職金	—	233
特別損失合計	1,579	2,169
税金等調整前四半期純利益	5,774	11,158
法人税、住民税及び事業税	3,523	3,989
法人税等調整額	365	493
法人税等合計	3,888	4,482
少数株主損益調整前四半期純利益	1,886	6,676
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△358	827
四半期純利益	2,244	5,849

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,886	6,676
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	668	2,602
繰延ヘッジ損益	△114	82
為替換算調整勘定	<u>1,592</u>	<u>1,534</u>
在外子会社の年金債務調整額	△0	△374
持分法適用会社に対する持分相当額	689	3,239
その他の包括利益合計	<u>2,834</u>	<u>7,082</u>
四半期包括利益	<u>4,721</u>	<u>13,759</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	<u>4,585</u>	<u>13,018</u>
少数株主に係る四半期包括利益	135	740

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	水産事業	食品事業	ファイン 事業	物流事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	172,986	200,200	20,804	10,151	404,142	18,417	422,559	—	422,559
セグメント間の内部売上高 又は振替高	9,279	1,001	196	5,579	16,058	1,570	17,628	△17,628	—
計	182,266	201,202	21,001	15,730	420,200	19,987	440,188	△17,628	422,559
セグメント利益	222	2,173	5,692	1,525	9,614	948	10,563	△2,959	7,604

(注) 1. 「その他」は、報告セグメントに含まれない船舶の建造・修繕やエンジニアリング等が対象となります。

2. セグメント利益の調整額△2,959百万円には、セグメント間取引消去65百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△3,024百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

第3四半期連結累計期間において「水産事業」セグメントで売却予定の資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に189百万円計上いたしました。また、いずれの報告セグメントに配分されていない遊休資産について138百万円を減損損失に計上いたしました。

(のれんの金額の重要な変動)

「水産事業」セグメントにおいて金子産業株式会社の株式を取得し連結子会社としております。これによる第3四半期連結累計期間におけるのれんの増加額は2,304百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	水産事業	食品事業	ファイン 事業	物流事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	186,077	212,495	21,565	10,630	430,769	17,926	448,695	—	448,695
セグメント間の内部売上高 又は振替高	7,909	925	205	5,332	14,374	1,472	15,846	△15,846	—
計	193,987	213,421	21,771	15,963	445,143	19,399	464,542	△15,846	448,695
セグメント利益	4,186	2,435	5,856	1,339	13,818	814	14,632	△2,956	11,676

(注) 1. 「その他」は、報告セグメントに含まれない船舶の建造・修繕やエンジニアリング等が対象となります。

2. セグメント利益の調整額△2,956百万円には、セグメント間取引消去76百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△3,032百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において「食品事業」セグメントで閉鎖を予定している工場の資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に195百万円計上いたしました。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。